

様々な森の姿を描いた一冊の画集「エメラルドの森」が私の机の上に置かれています。それには日本の里山や奥山、海外の熱帯雨林、野生動物が群がるサバンナ、野鳥が休む大湿原などの景色が描かれた数百枚の絵が並んでいます。精緻な筆使いと鮮やかな絵具により生き生きと描かれた森は、現実を越えた夢のエメラルドの世界です。これらは私の友人である磯野宏夫画伯があちこちの森を訪れた時の写真と印象から、自然環境や地域の暮らしの情景をイラスト

仕組みと植生遷移の「クライマックス」が映っています。湿地に暮らす水鳥や乾燥した草原を駆ける野生動物の姿には生物の「多様性と順応性」の様子がわかります。災害や荒廃の後に甦る森の姿には、たくましい自然の回復力「レジリアンス」が見えます。森を理解するのに欠かせない大切な性質である多様性、持続性、再生力、社会性、文化性などを「エメラルドの森」は巧まらずに、誰にでもわかるように見せてくれます。そして、森は私た

近な友達に見てもらい評判を聞いて、朗読を加えたりしながら改造を試みているところですが、癒しと森の勉強になるブルーレイディスクが完成するのが楽しみです。肩苦しい話しか出来ない私にとっては大きなチャレンジです。左の絵はどちらも画集「エメラルドの森」からの引用です。広葉樹と針葉樹がモザイク状に配置された里山にたたく農家の景色や深い雪に埋れた手つかずのブナ林の明るい景色は、次世代に残したい日本の森だと思います。

緑のエッセイ



レーションとして創作したものです。私は暇があるとこの画集を開き、美しい画面を眺めて、ゆっくりとした時間を過ごします。

磯野画伯は森林を愛する芸術家ですが研究者ではありません。しかし、それぞれの画面には

森林の仕組みや働きがよく表れています。たとえば、雑木林の風景には山里の暮らしとの関わりがよく感じられ、自然との「共生」が見えてきます。深い原生林の絵には、数多くの種類の大小の樹木と蔓とが絡み合い、安定した生態系の

ちが人間らしい豊かな暮らしを送るのに必要な社会的な財産であることを教えてくれます。この一冊の画集は、森林科学の大学教科書よりも森のことを目で理解できる楽しい教材だと思います。

私は、磯野画伯の絵に見える自然の仕組みをエッセイ風の文章で解説し、そして、絵を動かし、音楽を組み合わせたブルーレイディスク「エメラルドの夢・森の国日本」をつくりました。画家と森林研究者の共同作品です。今、身

●プロフィール

1936年京都市生まれ、京都大学農学部卒業、農学博士。信州大学、東京農工大学、日本大学教授、その間、ワシントン大学、ニュージブラッド森林研究所で森林計画を研究。日本林学会会長、農林水産省林政審議会会長を務めた。現在は神奈川県丹沢の自然再生の市民活動に参加。現職は日本森林林業振興会会長。

最近の著書(編者と共著)・・・「丹沢の自然再生」(2012)、「里山創生」(2011)、「みどりの市民参加」(2010)、「時空間情報プラットフォーム」(2010)、「森林科学」(2009)



天然林と人工林とで彩られた秋の里山



雪に覆われた静寂な冬の奥山